

有限会社
マキバ

満 喜 葉 通 信

567-0033茨木市松ヶ本町5-41
TEL 050-3579-4769

発行日 平成17年8月8日

春日牧場記念館

見学風景

白衣で説明するのは2代目当主野口久次郎
昭和30年代？

<http://www.kasugamilk.com/kasuga/photo/100nen.htm>



近所の幼稚園や小学校から多くの子供
たちが見学に見えました。少し見にくい
ですが、写真に見覚えの方は連絡下さい



学校給食と牛乳

終戦後の食糧難時代の昭和22年に、戦前より小学生の体格と栄養について研究していた、東北大学の近藤正二教授の努力で始まった学校給食、当初はユニセフやララ物資によるアメリカの供給する脱脂粉乳を水で溶いたものを供給していましたが、大変不味いもので、鼻をつまみながら飲んだおぼえがあります。昭和33年に一部牛乳が供給され、学校の給食場で脱脂粉乳に混ぜて使われるようになり、さらに昭和38年その脱脂粉乳を牛乳メーカーが引き受けることとなり、国庫補助も実現し、正式な制度牛乳がスタートすることとなり、はじめて子供たちがビンに入った牛乳を飲むようになりました。さらに昭和48年からは脱脂粉乳の使用もなくなり、本当の牛乳を子供たちに飲んでもらえるようになったのです。

学校給食は、パンと牛乳というパターンを経て、米飯給食の導入など現在では多様なメニューが作られるようになりました。国庫補助が殆どなくなった現在でも牛乳は、その豊かな栄養とバランスのとれた食品であることから、必ず給食に用いられていますが、今後の学校給食は少しずつ国の制度給食から離れ、市町村さらには学校ごとに個性豊かな独自のメニューに変わって行くのではとも思われます。ただ、そのことにより学校ごと、特に地方の学校での給食のメニューや費用に大きな格差が生じてくる心配もあり、衛生面の管理も含め、学校間の格差が生じないように、今後学校給食の行方には十分注目しておかねばならないと思います。

食中毒キャンペーン

7月14日(木)大阪食品衛生協会茨木支部では、JR千里丘駅前にて食中毒防止キャンペーンを行ないました。

大阪府茨木保健所と食品衛生協会茨木支部の主催でボランティアの婦人会の皆様も協力され、猛暑の中PRが繰り広げられました。JR千里丘駅やニッショー千里丘店の皆様のご理解にも感謝いたします。

さらに7月22日(金)大阪食品衛生協会は北摂ブロックの食中毒防止キャンペーンを豊中駅前で行ないました。

食品衛生協会



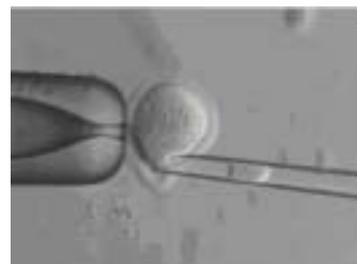
バイオテクノロジー

遺伝子組み換えやクローンと言う言葉を良く耳にします。

さて、この違いについて考えますと。細胞中のDNAの操作が違っているようです。クローンは完全なコピーであり、優秀な個体があれば、同じものをもう一つこしらえることが出来るわけですが、それは通常、卵子と精子が生殖活動により融合して発生するものでありますが、この場合、どの部位の細胞でもかまわないからそのDNAの入った核を、未受精の卵子の核と置き換えてやることで、あたかも受精したかのような状態を作り出す方法です。しかし通常では、其の俛で細胞分裂は始まりません。さらにこの細胞に一定の電気刺激などを加えてやることで、活動が開始するのです。研究者がこの方法に行き着くまでに、おおよそ30年ほど経過しています。その昔大阪万博の時に農林省畜産試験場が展示した、牛での体外受精の成功例、その後にイギリスの研究者が発表した、人での体外受精、それ以来の念願の研究成果でありました。その間の研究の経過に遺伝子組み換えというも

のがあります。これは受精卵のDNAの配列の一部を別のDNAと置き換えるというもので、たとえば野菜のDNAに、除虫菊のような虫もつかない植物の、DNAの一部を置き換えてやるようなことを行ないます。そうしますとこの野菜は見た目も、味も、全く通常と変わらないのですが、なぜか虫がつかないというような事がおきるわけです。上記は極端な例ではありますが、その物の欠点を他の物の長所と置き換えてやるという技術が開発され、既に多くの食品が市場に出ています。これ等の技術はまだ実績として、わからない事も有り、消費者には特に遺伝子組み換えについて、安全性の心配をされる向きがあります。その場合、必ず出てきます論理が、上記に書きました極端な例で、虫も食べないものを人が食べれますか？という話になります。今後さらに安全性の研究を進め、食品はもちろん、医療にも多く利用されるようになると思われるのでしょうか、また逆に何か別の力が働くかもしれません。

マイクロマニピュレーターによる遺伝子操作



細胞の核(DNA)を抜き取って、他の核に入れ換えている様子
右のピペット中に挿入する核が見える

ホームページ開設のご案内

この度春日牧場のホームページアドレスの変更にともない、同じアドレスの下にマキバのホームページを開設いたしました。

まだ、未完成ではありますが、通販コーナーなど順次グレードアップして参りますので、時々アクセスをお願い申し上げます。

<http://www.kasugamilk.com/makiba/>

ホームページ作成等のインターネット事業も行なっております。ご相談下さい。

有限会社
マキバ

茨木市松ヶ本町5番41号

電話 050-3579-4769(I.P電話)

Fax 072 (626) 6994

Email ken@kasugamilk.com